

2025年度

学校名 上越教育大学 附属小学校

対象学年 6年生

① 学習指導案

プログラム	No. 8 「わたしたちのまちに言葉の贈りもの」 No.11 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全20時間)	郷土遺産見聞録 ～おすすめの郷土遺産パンフレットをつくろう～
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・上越の魅力や知らせたいことを考えながら、上越の郷土遺産を写真に撮り、自分たちのまちに対する考えや愛着などを発信するときの表現方法を学ぶ。 ・場所によって地域・自然・景観のよさが異なることや人によって考え方や見方に違いがあることを知る。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 郷土遺産を巡り、自分の考える魅力や発信したいことを写真に撮る 2 自分の撮影した写真に言葉や文章をつけて、見合う 3 これまで撮影してきた写真やまとめてきたものからパンフレットをつくり、発信する
参考資料 準備品 実施場所等	Pad、写真印刷用紙 展示用のパーテーションなど 教室、地域、他地域など

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
8	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土遺産に出かけ、その場所の魅力的なところを見つけて写真に撮影してくる。 ・仲間と写真を見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を撮りに行くときのポイントや注意点を話す。 ・それぞれの場所で、地域の人などに、その場所のことや魅力を説明してもらい、疑問に思ったことを質問するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の意欲 (観察・写真) ・表現力 (写真) ・課題設定能力 (観察・インタビュー)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の撮影した写真に、説明や魅力、人とかかわりなどをつける。 ・他県の郷土遺産を知り、共通点や祭を考え、文章に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現像した写真を渡す。 ・掲示するボードや会場を用意する。 ・場所による共通点や差異に目を向ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力 (写真・文章)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・訪れた場所の魅力や課題を話し合い、整理する。 ・今後訪れる人のために、魅力、ポイントなどをパンフレット 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力、ポイントなどを考える際に示唆を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題追求能力 (観察・話し合い) ・表現力 (作成物)

	トやチラシに作成する。	
--	-------------	--

<留意点>

- 郷土遺産を巡るときや写真を撮影しているときの安全に留意する。
- ものやことだけに視点が限定しないように、視野を広く持って構図を考えるようにする。

② 事業実施報告書詳細

学校名 上越教育大学附属小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
8	上越市内	<ul style="list-style-type: none"> • 郷土遺産に出かけ、その場所の魅力的なところを見つけて、写真に撮影する。 		<ul style="list-style-type: none"> • 上越市内の様々な場所に出向き、「昔の人もこの山の上からの景色を眺めていたのかな」「春日山を守るための活動は大変だ」「普段見ている景色がただの山から、大切にしたい山になって、意味が変わった」と話した。
6	校内	<ul style="list-style-type: none"> • 撮影した写真に、郷土遺産について考えたことや課題、方策を記す。 • 教室のボードに掲示する。 		<ul style="list-style-type: none"> • これまでにかかわった郷土遺産やそれらにかかわる人から、感じ考えたことを表した。 • 子どもは、郷土遺産を見つめ直すことで、あわせて課題も見つめた。課題を乗り越えるための方策を考え始めた。

		<ul style="list-style-type: none"> 他県の郷土遺産と比較したことをまとめて、文章に表す。 教室のボードに掲示する。 	 <p>【家】 日本の伝統的な建築様式の一つである大内宿の建物は、大内宿を造ることで、大内宿の歴史や文化を伝える役割を果たしている。大内宿の建物は、大内宿の歴史や文化を伝える役割を果たしている。大内宿の建物は、大内宿の歴史や文化を伝える役割を果たしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仲間の考えを読み合うことで、新たな魅力に気付いたり、仲間の考えを知ったりできたと、郷土遺産のとらえをひろげた。
6	上越市内	<ul style="list-style-type: none"> 今後訪れる人のために、魅力、ポイントなどをパンフレットにする。 地域のイベントに参加し、上越の郷土遺産を様々な人たちに伝える。 	 <p>感動したい人 「上越市郷土遺産」は約20年のおみこしがあります。おみこしはとも大きく、力強く、ひとつひとつに伝承されています。暑やで活気ある上越市郷土遺産に参拝してみてください。</p> <p>感動したい人におすすめの「影絵」です。影絵は光と影を使って物語や絵を表現することです。上越市郷土遺産を伝える人は上越総合技術専門学校の人たちが毎年発表している影絵を基本通りフェスティバルで見ることが出来ます。下の写真は今年の上越総合技術専門学校の人たちが作成した影絵です。フェスティバルではなくても、行けばまだ観覧はできるので、ぜひ行ってみてください。僕は影絵で感動できると思っています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでに書きためてきたものから、パンフレットを作成した。それぞれの場所の案内や魅力を盛り込んだ。 多くの方が参加するイベントへの出店が決まり、楽しみながら郷土遺産を知ってほしいという思いで、クイズやワークショップのブースを作ったり、パンフレットを配ったりすることを考えた。 実際に、多くの方が参加してくれ、真剣に郷土遺産の掲示を見てくれたことから、来場者に伝わったのではないかとこの思いをもった。

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- ・上越地区にあるものにかかわるときには、会うだけでなく、それらにかかわる人とも出会い、思いや願いを聞いたり、一緒に活動したりした。子どもが郷土遺産に愛着をもつことができるようにした。
- ・上越地区にある人やもの、ことに出会い、子どもと共に「郷土遺産とは何か」ということを話し合い、考え続けた。子どもが考え続けることで、その場所やものについて新たな見方ができるように取り組んだ。
- ・上越地区の郷土遺産のよさを知りながらも、課題となる部分を仲間と考え、郷土遺産のもつ課題を解決するための取組を考えた。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ・地域には、たくさんの郷土遺産がある。しかし、子どもと共に活動できる時間には制限があるため、全てを訪れることができない。そこで、考え方や見方に偏りがでないように、様々な視点でかかわれるものにあたった。
- ・子どもとは、郷土遺産にかかわる人が行う保全活動にも参加した。他者に伝える際に子どもが撮影した写真だけでは伝えきれないものがあった。パンフレットの作成やイベントの時には、子どもが伝えたいことが伝わるように担任が撮影してきたものも含みながら作成した。

(3) 児童の反応

- ・子どもは、様々な場所でものやこと、人に出会うことを繰り返すことで、郷土遺産に対する愛着を深めていった。また、それまでは景色にしかすぎないものが、大切なものの一つになっていった様子があった。
- ・子どもはそれぞれに郷土遺産について考えた。学級の仲間と「郷土遺産とは」について話し合うことによって、学級の仲間が考えることを受け入れたり、反対意見を伝えたりと、意見交流を行った。お互いに考えていることを伝え合う大切さに気付いた。
- ・郷土遺産を多くの人に知ってほしいと考えた子どもは、多くの人に楽しみながら郷土遺産を伝えようと考えた。説明を真剣に聞いてくれた人や一緒にクイズをしてくれた人がいたことから、全部は伝わらなくても伝わったことがあったと満足感を示した。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・子どもが考える『郷土遺産』について、共に考えることができた。担当教諭が郷土遺産だとも、子どもにとっての郷土遺産や考え方には、新たな視点で捉えることができるものがたくさんあった。
- ・発信する際の発想力が高く、対象を考えながら取り組む子どもの様子があった。

(5) 今後の課題と取組〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- ・6年生の子どもにとって、自分の住んでいるまちやまちのよさを知ることでできる活動となったと考えている。また、宿泊体験活動では、他県の郷土遺産にも触れた。子どもがこの先、生きていく中で、歴史あるものや人々に大切にされてきたものを見極めながら、郷土を大切にしていって次世代の担い手となっていくことを期待する。